

### 適正な運賃の収受が不可欠

「トラック産業の将来を考える懇話会・近畿」は、荷主から適正な運賃を収受する取り組みのひとつとして、12月10日、大阪府トラック協会との意見交換会を初めて開催することができた。

今年、就任した中川才助氏（大阪府トラック協会会長）から産業の状況や課題の説明がありました。

トラック懇話会代表の南海久次氏は「今回の意見交換会はトラック運送業界の健全な運営にとって、『標準的な運賃の告示』を最大限に活用しなければ、今後、運賃・料金の改善は困難とされる状況である。2023年度末までの時限立法とされている中で標準的な運賃の収受をするために、トラック懇

## 初のトラック協会との意見交換会

話会も協同した取り組みを模索していきたい」とあいさつされた。



大阪府トラック協会は、届け出率を引き上げるために、ガイドラインや荷主への周知活動、新聞などへの広告、また、事業者への説明会を行い、協会12支部のうち、2支部が80%以上、7支部が50%以上と大きく前進させることが

できたが、3支部が低い状況で、大阪府平均で43.3%となっている。届け出率を改善させるために支部長連絡会を開催し、各事業者に要請の強化をしていくと報告された。

トラック懇話会（略称）が望んでいるのは、届け出率が過半数以上になれば、安い運賃では事業が成り立たないと示すことができるが、効力がないものを決めても何も変わらない。今後、法制化や義務化などもっと効力のあるものにするべきと訴えた。

（執行部 陣内恒治）

## 弾圧をはねのける！全国同時アクション in 大阪

12月12日、「弾圧をはねのける！全国同時アクション」が西区堀江公園で開催されました。

大阪支部からは執行部13名、11分会59名、総勢72名の参加で、全体では主催者発表700名の参加がありました。

この行動は全国でほぼ同時に、札幌・東京・横浜・名古屋・福岡の6カ所で開催されました。

集会で、全日本連帯関西地区生コン支部湯川裕司執行委員長から「この弾圧を何があっても乗り越え、勝利しなければならぬ。何があっても前をむいて進んで行く」と力強いアピールがありました。

その後、川口真由美さんの歌で盛り上がり、周辺の人たちも、足を止めて聞き入っている人もいました。



集会まとめとして、全港湾大阪支部小林執行委員長は「これまでのコンプライアンス活動、ピラマキ活動が恐喝、あたり前の労働組合活動を犯罪だとする判決は極めて不当な判決だ。こんな事を許していたら労働組合が成り立たない。産業別労

働運動の正当性をより広く訴えていかなければいけない。12月13日に加茂生コン控訴審判決（大阪高裁）座り込み集会を行います」と訴え、最後に団結ガンパローで集会は終了し、デモに出発しました。



デモは、若者の聖地と言われているアメリカ村の三角公園前を通り、何事かと振り向く人や、スマホで動画録画する人もたくさんいました。若い人たちにも、少しでも



「労働組合への弾圧は憲法を踏みとじるものである事」を訴えることができました。コロナ禍状況が落ち着いている中で、大きな集会とデモが完結できたことはとても良かったです。デモは御堂筋を南下して『なんぼ』で流れ解散となり、全国同時アクションは終了しました。

（執行部 竹山保彦）

# だんけつ



発行 大阪府港区築港1-12-27  
全日本港湾労働組合関西地方大阪支部  
発行責任者 國分仁昭

## 岩国国際連帯集会に参加

### ◇岩国行動

11月20日、21日の2日間、山口県岩国市で開催された「2021岩国行動」に大阪支部より執行部3名、教官部1名が参加しました。

初日は「2021岩国・労働者反戦交流集会」「2021岩国国際連帯集会」が岩国市民文化会館でおこなわれました。2日目は「岩国基地フィールドワーク」「屋外集会・デモ」に参加しました。

### ◇岩国・労働者反戦交流集会

初日15時から岩国市民文化会館で「2021岩国・労働者反戦交流集会」が関谷書記次長司会のもと開催されました。



参加者70名を超える中、垣沼陽輔氏（全日建連帯労組近畿地方本部）から開会あいさつがあり、南守氏（福祉・介護・医療労働組合）より基調提案がありました。

発言では平田郁生氏（全日建連帯労組・関生支部）から「関生支部への大弾圧をはね返す」について発言があり、関生支部への共闘支援への感謝の言葉、今後の反戦攻勢への力強い発言がありました。本村真氏（ユニオン北九州）より「技能実習生問題・ユニオン北九州への弾圧」について発言があり、外国人技能実習生へ対する暴力や暴言など、また、ユ

ニオン北九州に対する国家権力による弾圧について発言がありました。



全港湾大阪支部陣内副委員長から「沖縄闘争の真実」について、パワーポイントを用いて報告があり、辺野古基地移設問題をはじめ、ずさんなサンゴ移植の現状など、沖縄基地負担軽減のためのグアムへの海兵隊移転費用の約28億ドルが我々の税金から支出されるなどの報告がありました。しかし、沖縄県民の負担が軽減されていないことへの矛盾点があることも発言されました。

10分間の休憩後、落合紀久子氏（山口県退職教職員協議会）から「守ろう愛宕山」の歌で後半の部が開始しました。

引き続き、藤村妙子氏（南部全労協）よりパワーポイントを使った形で首都圏での反戦闘争運動が報告されました。また横田基地への抗議行動など映像を交えた報告がありました。

最後に、但馬けい子氏（大阪全労協）よりまとめがあり「2021岩国・反戦交流集会」は終了しました。

### ◇岩国国際連帯集会

初日17時30分より「2021岩国国際連帯集会」が、100名以上参加の中、瀧川順朗氏による主催者あいさつのもと開催されました。

基調報告のあと、海外から連帯発言・メッセージがありました。その後、岩国をはじめ沖縄・佐世保・宮古・京丹後から各地の報告があり、それについて質疑応答がありました。最後に「岩国・労働者反戦交流集会実行委員・AWCユース・若狭の原発を考える会」から連帯発言があり、司会者まとめをもって集会は終了しました。

### ◇基地フィールドワーク

2日目9時半より岩国基地フィールドワークをおこないました。出発前に現地案内者から「本日は休日です。戦闘機の飛行はないだろうと思います。しかし先日入港した、米海軍強襲揚陸艦「アメリカ」の見物人が多い、と説明を受け現地に向け出発しました。



現地に到着すると多くの見物人が望遠カメラで撮影おこなっていました。私たちもフィールドワークを開始したところ、突然上空より聞いた事もない轟音が響きわたりました。私はこれまで停まっている戦闘機は見ているのは初めてだったので轟音の凄さに驚きました。地元参加者の話では、「今回の轟音は静かな方で、集会中に戦闘機が低空飛行をしている時はマイク音も聞こえない状況に陥るために、戦闘機が離れるまで集会を中断する」と説明を受け、轟音